

## 1. 教員および授業の概要

①教員名：赤坂 一念 (Akasaka Ichinen)

②担当科目

- ・ 博士前期課程：北東アジア専門講義 3 (国際政治・安全保障研究)  
北東アジア研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

- ・ 早稲田大学大学院政治学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
- ・ 政治学修士 (早稲田大学 1993 年)
- ・ 国際政治学、国際関係論、安全保障論、チェコ研究 (芸術文化と政治の関係) 専攻。

④所属学会

日本国際政治学会、早稲田政治学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・ 国際政治における小国外交の可能性
- ・ 国際政治学におけるパワー概念の研究
- ・ ソフトパワーとしての芸術文化
- ・ ヨーロッパにおけるナショナル・アイデンティティの淵源としての芸術文化
- ・ 政治に対するカウンター・バランスとしての芸術文化の意義
- ・ 芸術文化と政治の協働ーチェコ・プラハにおける魅力ある都市創造の試みの研究
- ・ チェコにおけるアイデンティティの形成と効果的なイメージ戦略の展開

⑥研究指導方針

大学院生にとって重要なことは、まず第1に、将来多くの収穫が期待できる研究テーマをいかに早く見つけ出すか、第2に、それに関する先行研究をいかに早く精査できるか、第3に、いかに早く論文の設計図を作り上げるか、第4に、論文の完成までいかに集中できるか、だと思います。そのリテラシーを伝授できたら幸いです。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

私の研究領域や関心は⑤に記した通りですが、これ以外でも国際政治・国際関係に関連するテーマであれば指導可能です。過去に私が主指導教員として指導した研究テーマとしては、「北東アジアにおける環境問題と国際協力ー地方自治体の可能性ー」(2005年度提出の修士論文)があります。

## 2. 研究業績リスト

### ①著書

- (1) 宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』国際書院、2002年、「ポスト冷戦期における日本の安全保障－国家・個人・地域の可能性－」（第17章）449-466頁、担当。

### ②論文

- (1) 「アメリカ国際理論研究におけるパワー論の登場(1)－1930年以前－」『早稲田政治公法研究』第46号、1994年8月、31-52頁。
- (2) 「アメリカ国際理論研究におけるパワー論の登場(2)－1930年代－」『早稲田政治公法研究』第48号、1995年4月、29-56頁。
- (3) 「アメリカ国際理論研究におけるパワー論の登場(3)－1940年代前半－」『早稲田政治公法研究』第50号、1995年12月、33-62頁。
- (4) 「アメリカ国際理論研究におけるパワー論の登場(4)－パワー論の分類とその確認－」『早稲田政治公法研究』第53号、1996年12月、149-171頁。
- (5) 「アメリカ国際理論研究におけるパワー論の登場(5)－インプリケーション－」『早稲田政治公法研究』第55号、1997年8月、33-60頁。
- (6) 「パワー論の登場とその意義－20世紀前半期におけるアメリカ国際理論研究の再検討－」早稲田大学博士学位候補者資格請求論文、1998年4月、全114頁。
- (7) 「国際理論研究におけるパワー概念の「アメリカ的受容」(1)－先行研究との対話－」『総合政策論叢』第1号、2001年3月、1-20頁。
- (8) 「スプラウトにおける対外政策研究の再検討の試み(1)－その国際政治学の理論体系に注目して－」『北東アジア研究』第1号、2001年3月、43-56頁。
- (9) 「スプラウトにおける対外政策研究の再検討の試み(2)－パワー概念の覚醒と受容の観点から－」『北東アジア研究』第2号、2001年10月、147-159頁。
- (10) 「国際理論研究におけるパワー概念の「アメリカ的受容」(2)－パワー論をめぐる7潮流－」『総合政策論叢』第2号、2001年12月、23-42頁。
- (11) 「総合政策学的アプローチの可能性－地域の安全保障をめぐって－」『総合政策論叢』第8号、2004年12月、17-48頁。
- (12) 「国際理論研究におけるパワー概念の「アメリカ的受容」(3)－パワー論争の多元化と収斂－」『総合政策論叢』第11号、2006年3月、27-46頁。
- (13) 「国際理論研究におけるパワー概念の「アメリカ的受容」(4)－その意義－」『総合政策論叢』第13号、2007年3月、61-81頁。
- (14) 「スプラウトにおける対外政策研究の再検討－パワー概念再解釈の試みの観点から－」『総合政策論叢』第15号、2008年3月、15-27頁。